

目次

佐伯順子	7
宮田まり子	19
カズコ・ホーキ	31
川喜多和子	42
岡田史子	53
弥永徒史子	64
真穂ちゃん	75
若桑みどり	88
合田佐和子	101

如月小春

112

生田梨乃

124

岡崎京子

135

四代徳田八十吉

146

李香蘭（山口淑子）

158

山田せつ子

171

伊藤比呂美

182

重信房子

192

鷺沢萌

204

矢川澄子

211

岡田茉莉子

222

葉山三千子

234

水原紫苑

246

寮美千子

258

ヨンシル

270

神藏美子

282

石井睦美

294

おわりに

309

だってあなたの運を開いてくれるのは

きっと女ですからね。

あなたは男には

いつもきらわれるでしょう。

散文的な心からみると、

熱がありすぎるんだもの。

スタンダール『パルムの僧院』(大岡昇平訳)

佐伯順子

男と女の間には友情はなりたつのだろうか。男は女のどこに学び、どこに敬意を抱きつつ、自分を造り上げていくのだろうか。花火のような恋愛とはまったく違った形で、両者は純粹な信頼関係を生きることができらるだろうか。

わたしはこうした問いを前に、自分がこれまでに^で出逢った女性の友人たちのことを考えている。

本書のエピグラムに引いたのは、スタンダールの『パルムの僧院』のなかで、ナポレオンの軍隊に入りたくてしかたがないファブリス少年に向かって、叔母の公爵夫人が涙ながらに訴える言葉である。高校生のわたしはスタンダールが大好きだった。こんなすばらしい小説を書いた人が、どうして実生活では失恋の連続だったのだろうと思うと、人生は不条理（わけがわからない）という気がした。ひよっとしたらわたしもまたファブリス君のように、^{おぼん}稚くして熱っぽい少年であったかもしれない。ああ、こんなステキな叔母様がいらしたらなあ！

そのわたしを落ち着かせ、無事に地上に着地させ、これからも続く人生にあつて、せいしん星辰を仰ぎ見るほどに教えてくれた聡明な女性たちについて、わたしはこれから書いておきたいのである。